



shin

## チベット族の礼節と文化

広大な中国には多様な文化や伝統が存在します。沿岸部から 800 キロメートルも離れた内陸地にあるチベットもその一つです。今回は、今も伝わるチベット族の素晴らしい礼節と文化を、学生の姿を通じて紹介したいと思います。

物欲に囚われがちな現代社会では、学生も礼節に欠け、母校に対する感謝の気持ちを形にして表現する姿を目にする機会は稀かもしれませんが、チベットの学生は学校および教師に対して敬意を体現します。ひざまずいて頭を地につけて礼をしたり、「哈达」（ハーダーと読み、チベット族や一部のモンゴル族が仏に供えたり、尊敬の印として人に贈る赤・白・黄・藍などの帯状の絹布）を献上します。

チベットの庶民生活は決して豊かとは言えませんが、子供たちは「知識は力になること」を信じて、教師たちの熱心な教えに恩を感じつつ勉学に励みます。その恩を返すことがまだできない彼らは、ひざまずいて頭を地につけて、3 回礼をすることに精一杯の感謝の気持ちを込めています。そのお礼の仕方はチベット族の伝統礼式です。

チベット族には、受けた恩は必ず返す風習があります。心が純真なチベット族の子ども達の姿は、信仰心が廃れモラルが守られず信頼関係が損なわれがちな現実社会において、かなり貴重な存在なのではないでしょうか。

素朴な礼と感謝ですが、真心から発する点において人々の心を打つものがあると思います。現代社会においては、教師という職業はクレームの対象になる事例も多い中、チベットでは、教師は尊敬と報恩の対象です。



チベット族の学生が母校の前に「哈达」を献上



卓尼县藏族中学（2017年）

贅沢な謝恩会や記念品などはありません。ただ、素朴に心を込めて3回ひざまずいて頭を地につけて礼をするだけです。

一つ目の礼は、親のように接して教えてくださった恩師に感謝。二つ目の礼は、いろいろな啓発をしてくれたご恩に対する感謝。三つ目の礼は、今後一生を通して、この縁を大事にすることを表明する意味が込められています。そして、自らの純心を白い「哈达」に託し恩師に献上し、今後一生のご縁と繋がりを大切にすると意思を表します。



同仁县第二民族寄宿学校（2016年）



ひざまずいて頭を地につけて礼をする

チベット族は、仏教の教えにより、因縁や因果関係を信じています。他者には誠心誠意で接します。恩を受けたら、必ず報恩します。世知辛い世の中で、そのような信義や文化は大変貴重だと言えます。チベット族にはいつまでもこの良き伝統を守って行ってほしいと思います。